

なんだこの見え方は？

—錯視の不思議—(ステージショー)

【個人出展】

青森県教育庁中南教育事務所 鳴海 博史

●どんなステージなの？

人はモノを見るとき「目」を使い「アタマ」で考えます。見えるはずのないモノが見えたとき、「なんだこの見え方は？」となりませんか。実は、そのモノ（絵や映像）に秘密があります。私たちのステージでは、「錯視」の現象をとおして、見え方の不思議を体験できます。

●実験のしかたとコツ

- (1)回転する映像を30秒間見てから、自分の手のひらを見ます（図1）。
- (2)回転するバレリーナの映像を見つづけると、急に回転する方向が変わります（図2）。
- (3)赤いはん点ボードを30秒間見てから、そのあとうらの白いボードを見ます。
- (4)2枚のヘビのカードが、位置を変えると長さが変わります（図3）。
- (5)片方の目に紙の筒を当て、両目で手のひらを見ると手のひらに穴が開いたように見えます。
- (6)左右どちらの色が濃いですか？
- (7)白黒のボードを30秒間見てから、そのあとまわりの壁を見ます。
- (8)たてじまのボードの前に立ち、手をつつにしてのぞき、片足立ちになります。

ここでボードをゆらしませ（図4）。



図1

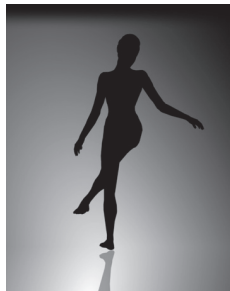


図2

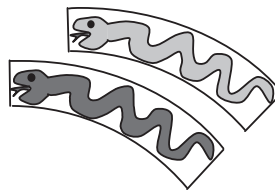


図3

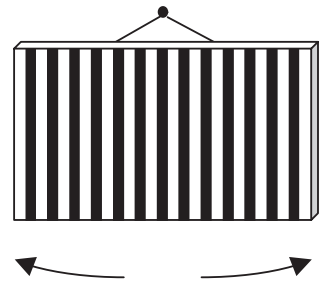


図4

●気をつけよう

やりすぎると、目と頭が疲れてしまうので注意してください。また、立って実験するときは、安全な場所で行ってください。

●もっとくわしく知るために

北岡明佳著：「おもしろサイエンス 錯視の科学」日刊工業新聞社（2017）